

第22回

中国残留日本人の体験を聞く会

同時開催 満洲移民の写真・パネル展
～地域共生社会の実現のために～



岩井梅子（中国帰国者）作 切り絵 「お母さん、会いたい！」

「私は日本人でもない、中国人でもない」

そうつぶやきながら故郷で生き、故郷で老いを迎える中国残留日本人に、私たちはどういう眼差しを送ってきたのでしょうか。

文字ではなく、声で語られるその体験に耳を傾け、共に生きていくために何ができるのか、一緒に考えてみませんか。

中国残留日本人の体験を聞く会

定員80人 無料・要事前予約

【日時】 2026年7月20日（月・祝） 13:00～15:30

【会場】 廿日市市総合健康福祉センター 3階 講座室

[廿日市市新宮一丁目13番1号（山崎本社 みんなのあいプラザ内）]

【内容】
✓歴史講座「満洲開拓と中国残留日本人」
（講師：広島大学 河本尚枝准教授）

✓満洲関連動画上映

✓語り部による満洲移民・中国残留体験のお話

【お申し込み】 下記お問い合わせ先にお電話でお申し込みいただくか、
右のQRコードから申込フォームにご記入ください。

【お問い合わせ】 （社福）広島県社会福祉協議会

中国・四国中国帰国者支援・交流センター

電話：082-250-0210 FAX：082-254-2464



満洲移民の写真・パネル展

無料・予約不要

【日時】 2026年7月20日（月・祝） 10:30～16:00

【会場】 廿日市市総合健康福祉センター 3階 講座室

主催 中国残留日本人の体験を聞く会実行委員会

共催 中国・四国中国帰国者支援・交流センター、廿日市市社会福祉協議会

後援 広島県、廿日市市、日中友好協会広島県支部

戦前から戦中にかけて海を渡って満洲に向かった人たちには、国策として送り出された約30万人の開拓団員もいました。昭和20(1945)年8月9日、ソ連の満洲侵攻で何万人もの日本人が逃げ惑い、家族と生き別れた子どもや女性たちは中国人家庭で生活を始めました。昭和47(1972)年の日中国交回復後、中国に残ったまま生活していた多くの日本人孤児たちの肉親探しが始まり、「残留孤児」をはじめとした中国残留日本人は、家族とともに永住帰国を果たしました。戦後30年以上を経て行われた日本への永住帰国は、中国残留日本人だけでなく、子どもや孫世代にも大きな影響を与えています。

「中国残留日本人の体験を聞く会」は、「日本語がうまく話せないけれど、私は日本人。その理由を、中国帰国者の存在を知ってほしい。」という中国帰国者の声を受け、これまでに広島県内・県外各地で、満洲移民の歴史と中国帰国者の体験を伝える活動を21回開催してきました。第22回を廿日市市で開催します。中国残留日本人がどのような思いで戦後を過ごしてきたか、耳を傾けてください。

ご来場の皆様へ

山崎本社 みんなのあいプラザへのアクセス

【公共交通機関】

- 路面電車 「廿日市市役所前」下車徒歩約5分
- バス 「可愛」下車徒歩約2分
「あいプラザ」下車すぐ

【自動車の駐車場利用】

無料駐車場がありますが、混雑と予想されます。
ご来場はできるだけ公共交通機関をご利用ください。



※中国帰国者支援・交流センターは、厚生労働省が、中国残留邦人やその家族を継続的に支援するため、全国7か所に設置(民間団体に運営委託)しているものです。中国・四国地区では広島県社会福祉協議会に設置されています。